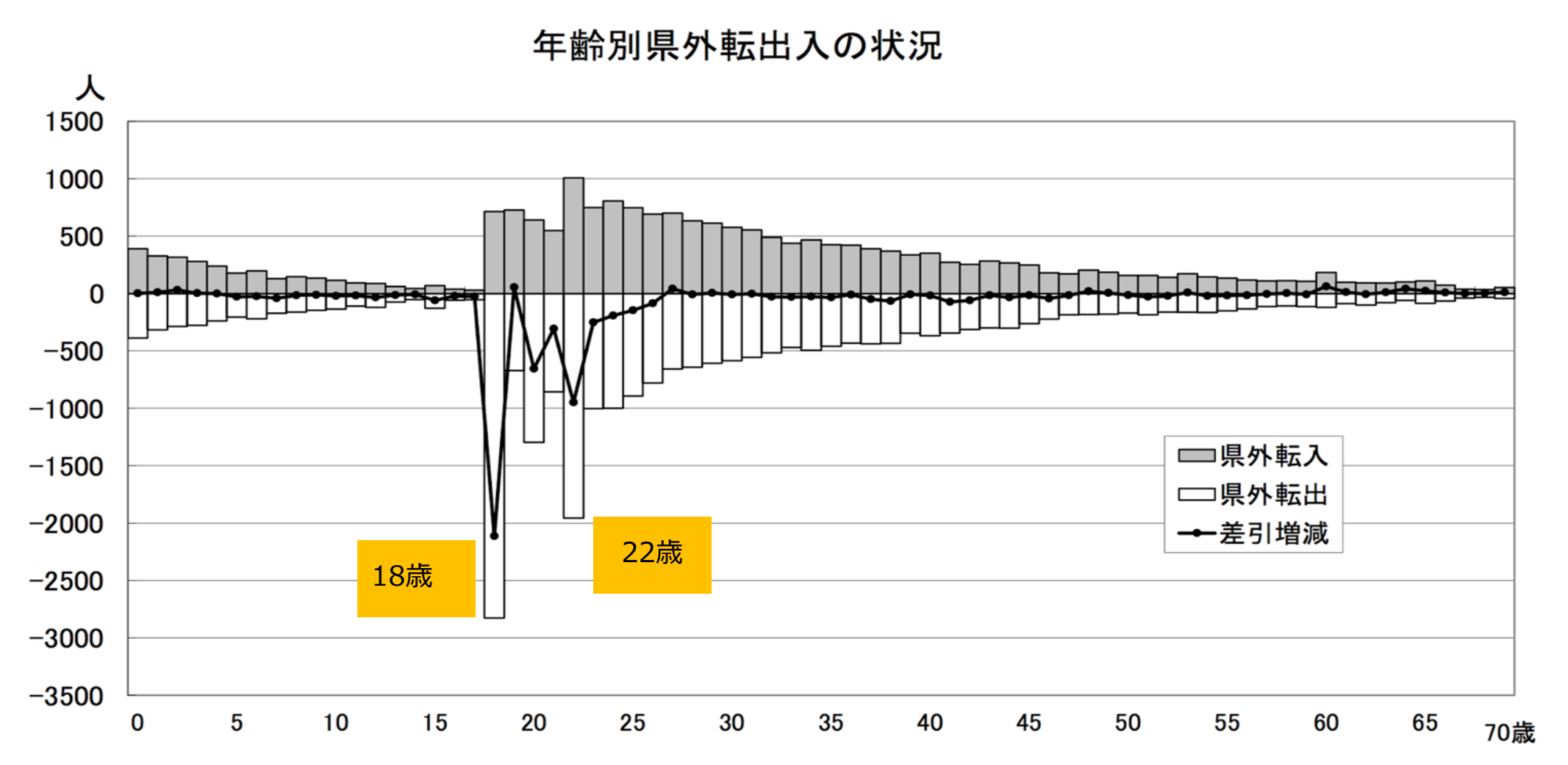


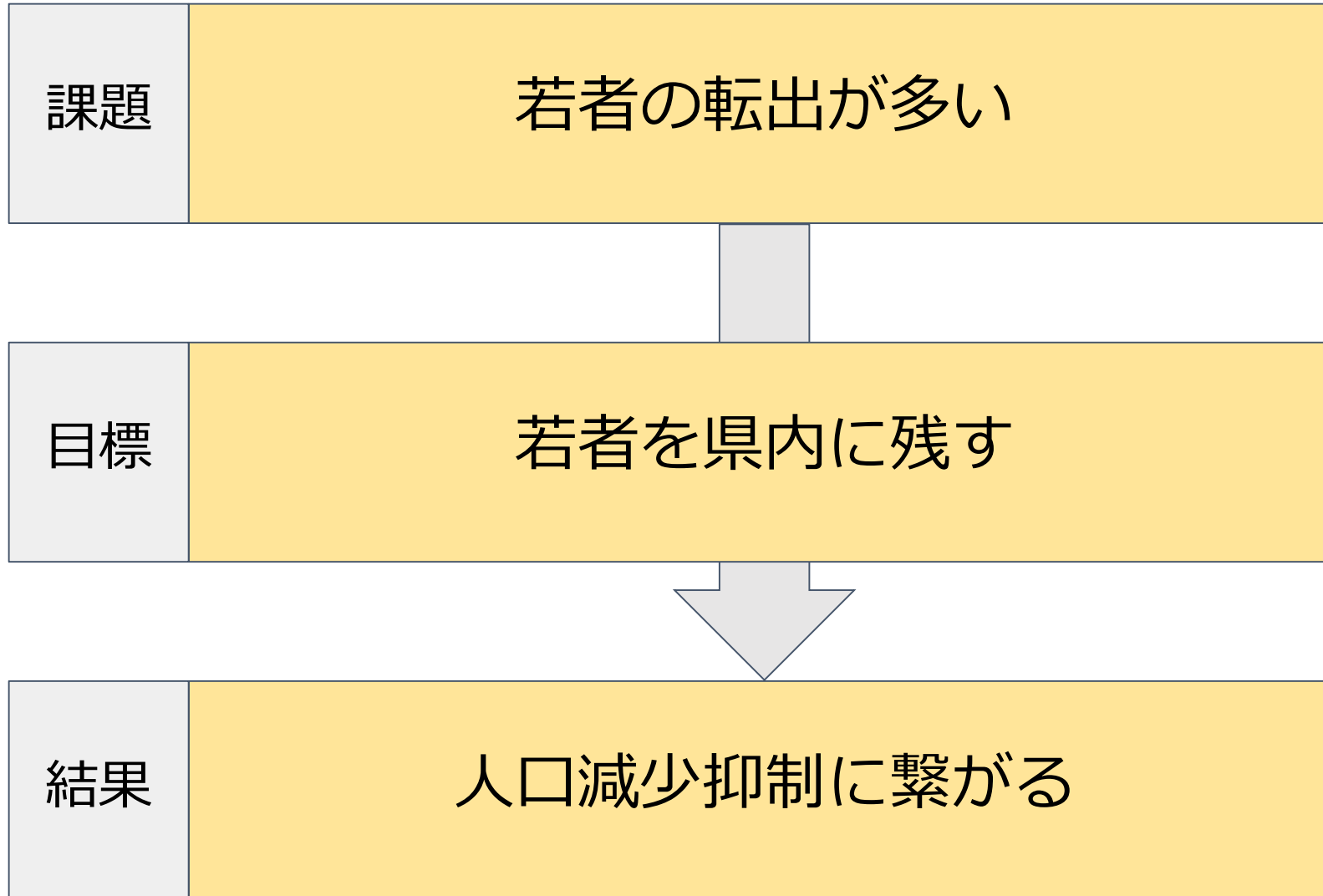
若者の地元定着に向けた 大学生のアプローチ

チーム CA423 人文学部経済経営課程 3年 工藤透生
吉崎幸海
2年 葛西瑞季
工藤汐音
田中健介

はじめに



はじめに



若者 = 大学生

なぜ大学生か。

高校生に比べて、就職意識が高い

同じ目線に立てる

大学生に向けた自治体の取り組み

8



AOMORI LIFE UP PROJECT 20

I♡青森トークショー

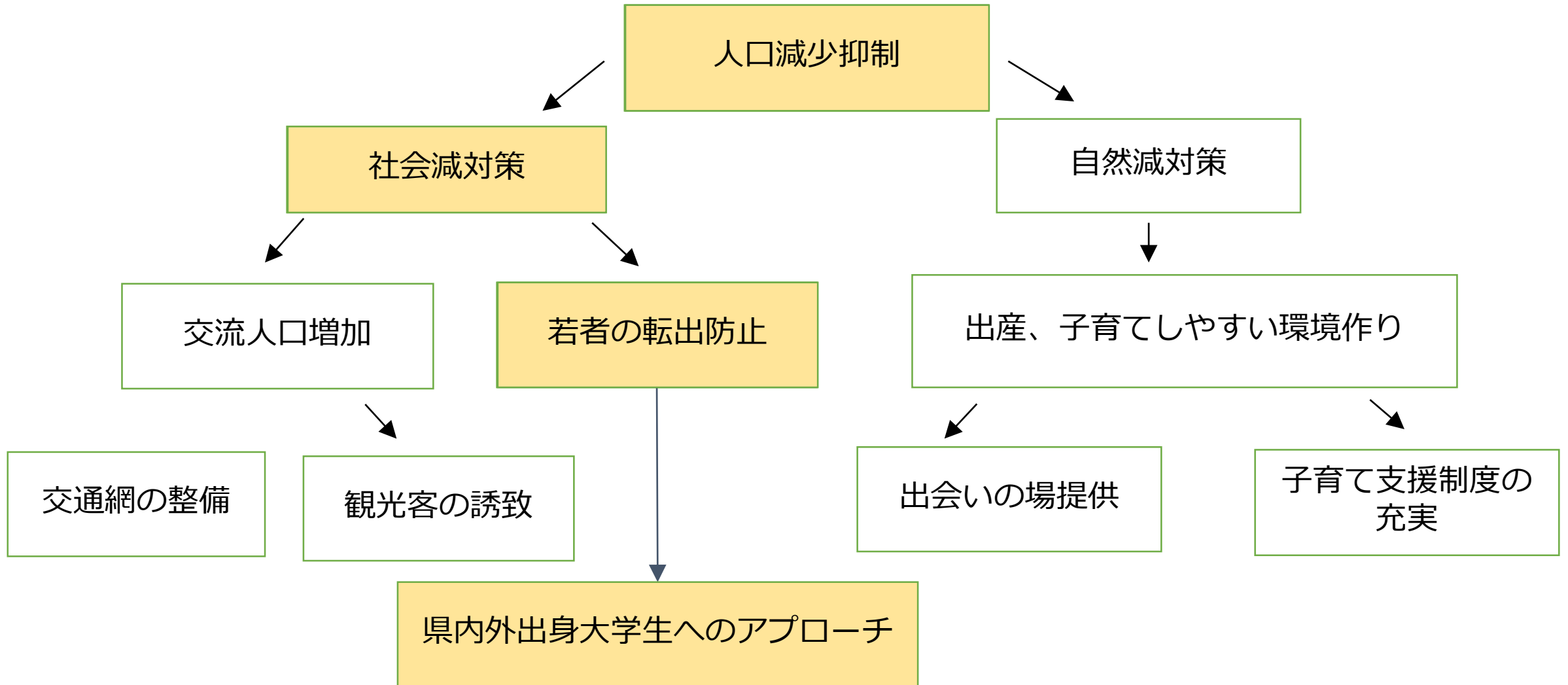
考動プロジェクト

AOMORI Media Labo.

新社会人の
ライフプランニング
セミナー

弘前街ナカゼミ

私たちの政策構造



Another Sky of Students

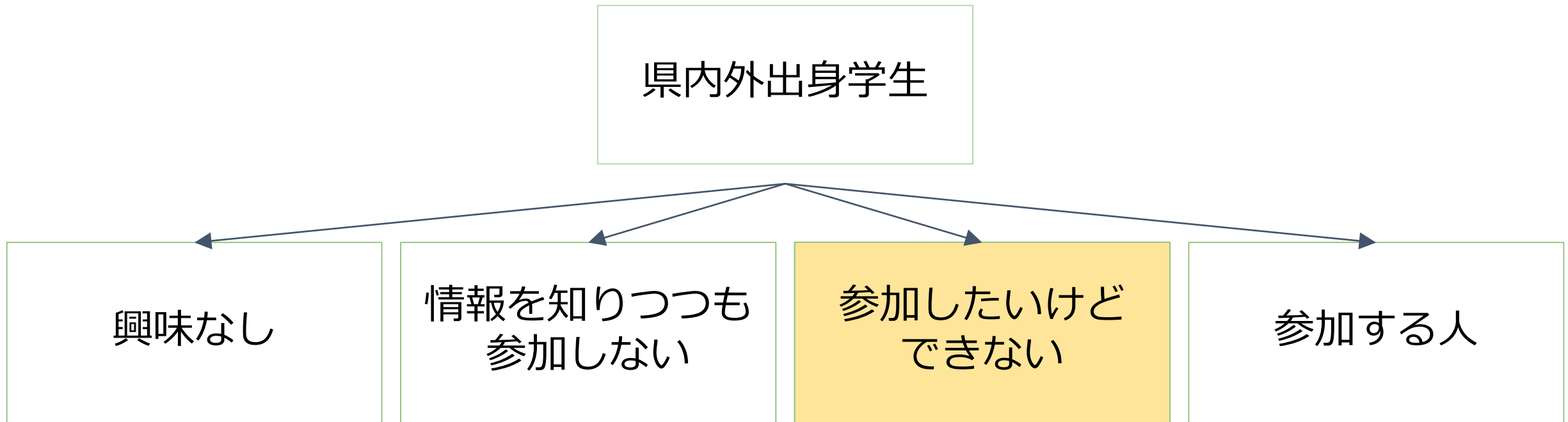
青森が県外から来た学生の**第二の故郷**になっている

青森で経験をして、**場所や人を好き**になっている

一度県外に行ったとしても、**戻りたくなる**青森

私たちの弘大生の分析(4パターンに分類) 10

地域社会との関わり合い



私たちの弘大生の分析（仮説）

13

参加したいけど
できない

巻き込む必要がある

けど、、、

参加できない理由があるのでは？

参加へのハードルが高い

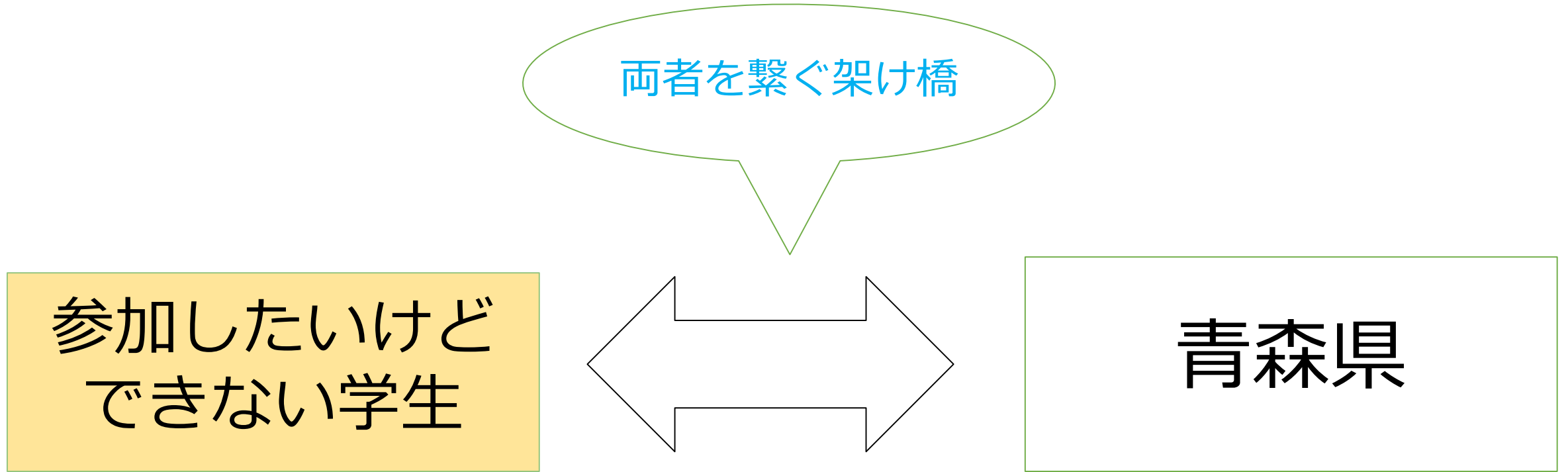
一人だと恥ずかしい

自分にはできない

周りの目が気になる

理想像に近づくためにやるべきこと

16



大学生の大学生による ワークショップ

大学生が主催することで
より参加しやすい

身近な人の変化として
受け入れやすい

私たちの政策提案

23

アットホーム

県庁より
ハードルが低い

1人1人に届きやすい

親近感

プロフェッショナル～大学生の流儀～

街ナカゼミの大学生版

プロフェッショナル

大学生 の 流儀

- 大学生を惹きつける大学生
- 一歩踏み出した大学生
- 大学内で有名な人（いい意味で）

私たちの取り組み

23

1月28日に行いました！

アイスブレイク

ゲストスピーカーの“きっかけ”の話

参加者の今後の目標

県庁主催イベントの告知

ミスねぶたになった理由

当時付き合ってた彼氏にフラれた。。。
見返すために応募した。

けど、逆効果だった。
フラれたあと友達づてで言われた言葉

『ハイスペックなところが嫌だった。』



笑って、楽しい企画だけど、真剣に考えることもできた企画だった
人をつなげることができるイベントになった

まとまりがなく、締まりが無い部分があった

企画者側も楽しむ雰囲気を作り出す

告知を早めにする

ミーティングを重ね、より濃い内容にする